

国語 第2学年 思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしよう 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校の国語の授業づくりを手伝う役です。この後に続く「みきのたからもの（第2学年）」の学習指導案を、私の学級に合わせて直してください。

先に、次の五つを一つずつ質問し、私の答えを待ってから次の質問に進んでください。まとめて聞かないでください。

一、学級の人数と、ペアやグループの組み方。

二、既習のこと。これまでに読んだ物語と、「場面」「登場人物」「あらすじ」「主語と述語」をどこまで学習してきたか。

三、この学級の子どもの実態。読むのが苦手な子、書くのが苦手な子、動作化に慣れているか、などの実態。

四、この単元に使える時間数と、研究授業にする時間（何時間目か）。

五、使える道具。一人一台の端末があるか、大型画面があるか、紙だけか。

五つの答えがそろったら、学習指導案を次の決まりで直してください。

学習指導要領の文言、評価規準の文末（「～している」「～しようとしている」）は変えない。

教科書の本文は引用しない。場面と登場人物の呼び方だけを使い、本文の言葉を入れる所は「先生が教科書から書き入れる」と書く。

時間数は私が答えた数に合わせ、削ったり足したりした時間がどれかを一覧にする。

本時の展開は、人数と道具に合わせて、活動の形（一人・ペア・グループ・全体）と使う物を書き直す。

つまりきへの手当ては、私が答えた実態に合わせて具体的に書き直す。

直した所の一覧を最後に付け、どの答えを根拠に直したかを一行ずつ書く。

文章は先生がそのまま使える言い方にし、比喩や決まり文句を使わない。

出力は、学習指導案と同じ見出しの順で全文を出してください。

直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしよう」教材名「みきのたからもの（蜂飼耳）」

2 単元の目標

(1) 文の中における主語と述語との関係に気付く。読書に親しみ、いろいろな本があることを知る。〔知識及び技能〕(1)カ・(3)エ)

(2) 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。(読むこと C(1)イ・エ)

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(第1学年及び第2学年の目標(3))

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①文の中における主語と述語との関係に気付いている。((1)カ)

〔知識・技能〕②読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。((3)エ)

〔思考・判断・表現〕①「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。(C(1)イ)

〔思考・判断・表現〕②「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①進んで、場面の様子に着目してみきの行動を具体的に想像し、学習の見通しをもって、お話を紹介する文章を書こうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

本教材は、みきが宇宙から来たナニヌネノンと出会い、話をし、別れ、その出来事を通して小さな石がみきのたからものになる物語である。みきの気持ちは多くは語られず、みきの行動や様子を表す叙述が多い。また、ナニヌネノンの姿はくわしく書かれていない。そのため、学習指導要領第1学年及び第2学年のC(1)エ「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」を、書かれている行動から想像する学習として働かせるのに向いている。誰が、何をしたかを確かめながら場面ごとの出来事をつかむ学習は、C(1)イ「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること」と、〔知識及び技能〕(1)カ「文の中における主語と述語との関係に気付くこと」に結び付く。第3学年では、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える学習(C(1)イ)へ進む。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にする。まず、気持ちを問う前に、みきのしたことを確かめる順を毎時間変えない。「みきは～した」の文に線を引き、動作をしてみてから様子を想像させる。次に、想像したことは吹き出しに書かせ、「どの言葉からそう思ったか」を必ず添えさせる。想像は答えを決めず、本文の言葉に基づく物はどれも認める。そして、単元の終わりに書く紹介文に向けて、場面ごとの吹き出しを一枚の紙にためていき、紹介する時の材料にする。紹介文は、あらすじと好きなところ、そのわけがそろっている物を「おおむね満足できる」状況、好きなところのわけに、みきの行動から想像した様子が書かれている物を「十分満足できる」状況の目安にする。

5 指導と評価の計画(全10時間)

第1次 第1時：○題名から、みきのたからものは何かを予想する。○範読を聞き、心に残ったところと、ふしぎに思ったところを書く。 評価：態①(発言・ノート)

第1次 第2時：○初めの感想を出し合い、学習課題「みきのしたことやようすを思いうかべて、お話をしよう」と、紹介する相手(家の人)を決め、学習計画を立てる。

第2次 第3時：○誰が、いつ、どこで、何をしたかを確かめ、お話を場面に分ける。○「だれが」「どうした」に当たる言葉に線を引く。 評価：知①(ノート)

第2次 第4時：○場面ごとの出来事を一文ずつで書き、あらすじにまとめる。 評価：思①(あらすじのワークシート)

第2次 第5時：○みきとナニヌネノンが出会い、話をする場面を読み、みきのしたことから、その時の様子を想像して吹き出しに書く。

第2次 第6時(本時)：○ナニヌネノンと別れる場面を読み、みきのしたことから、その時のみきの様子を想像し、したわけを吹き出しに書く。 評価：思②(吹き出し・ノート)

第2次 第7時：○最後の場面を読み、小さな石がなぜみきのたからものになったのかを、それまでの出来事を思い出して考える。 評価：思②(ノート)

第3次 第8時：○あらすじと、好きなところとそのわけを入れて、家の人にお話を紹介する文章を書く。○書いた文を読み返し、「だれが」「どうした」がそろっているかを確かめる。 評価：知①(紹介文) 態①(見直し)

第3次 第9時：○紹介文を読み合い、いいなと思ったところを伝え合う。

第3次 第10時：○学習を振り返る。○宇宙やふしぎな出会いが出てくる本を学校図書館で探して読み、読んだ本の題名を記録する。 評価：知②(読書記録) 態①(振り返り)

6 本時の指導(6/10)

(1) 本時の目標

ナニヌネノンと別れる場面のみきのしたことに着目して、その時のみきの様子を具体的に想像し、したわけを自分の言葉で書くことができる。(C(1)エ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：1 前時に書いた吹き出し(出会い、話をする場面)を読み返す。

2 本時の場面の範読を聞く。

○「この場面で、みきは何をしていましたか」

【めあて】わかる場面のみきのしたことから、みきのようすを思いうかべよう。

予想される児童の反応：・ナニヌネノンと会えて、うれしそうだった。

・ふしぎな話を聞いて、わくわくしていた。

・（この場面のみきのしたことを、子どもが本文の言葉で挙げる）

指導上の留意点：・前時までの吹き出しを、場面の順に黒板に貼っておく。

・範読の間、みきのしたことが書いてある所に指を置いて聞かせる。

【展開】

学習活動：3 みきのしたことに線を引く。

○「みきは、何をしましたか。したことが書いてある所に線を引きましょう」

4 線を引いたことを一つ選び、動作をしてみて、その時のみきの様子を想像する。

○「みきは、どんな顔で、どんなふうに、それをしたのでしょうか」

○「みきは、どうしてそうしたのでしょうか」

5 想像したことを吹き出しに書く。

6 ペアで吹き出しを見せ合い、どの言葉からそう思ったかを伝え合う。

7 全体で何人かの吹き出しを比べる。

予想される児童の反応：・さびしくて、ずっと見ていた。

・また会いたいと思っていた。

・小さな石を大事にしようと思った。

・行ってしまったのが、まだ信じられない。

・ゆっくり、何回もしていたと思う。

・顔は笑っているけれど、心はさびしい。

指導上の留意点：・線を引く前に、「したこと」は「みきは～した」の形の文だと確かめる（(1)力）。

・動作をする子を何人か前に出し、見ている子に「どんな様子に見えたか」を聞く。動作の速さや向きの違いから、様子の違いに気付かせる。

・吹き出しが書けない子には、「～だから、～した」の型と、様子を表す言葉の一覧（うれしい・さびしい・ふしぎ・わくわく など）を渡す。

・「さびしい」の一語で止まる子には、「どのくらい」「どうして」と聞き返し、言葉を足させる。

・早く終わった子には、別のしたことを選んで二つ目の吹き出しを書かせる。

・本文の言葉は、使う教科書から先生が書き入れる。

【まとめ】

学習活動：8 書いた吹き出しを、場面ごとの紙（みきのしたことを書いた物）に貼る。

【まとめ】みきのしたことをよく見ると、そのときのみきのようすが思いうかぶ。

9 振り返りを書く。

指導上の留意点：・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。

・振り返りは「どの言葉からみきの様子を思いうかべたか」と「友達の吹き出しでいいなと思ったこと」の二つで書かせる。

・次時は最後の場面を読み、みきのたからものについて考えることを伝える。

評価：思② 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（吹き出し・ノート）

（3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて。その左に場面の流れ（出会う・話をする・別れる・その後）を短い言葉で並べ、本時の場面を枠で囲む。中央にみきのしたことを書いた短冊（先生が教科書から書き入れる）を順に貼り、それぞれの下に子どもの吹き出しを並べる。同じしたことでも想像が違う吹き出しは並べて残す。左端にまとめと、吹き出しの型「～だから、～した」。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

